

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障害
のある人やひきこもり
者などの多くがもって
いる優れた感性と表

現力、そこから湧き出る独創的なアート
作品に対して、NPO 法人 障害者芸術
推進研究機構 (天才アート KYOTO)
が独自にネーミングしたものです。当
機構は天才アートを推進し、その啓発・
普及活動を積極的に行っています。

会 報
No. 29

天才アート

発行日 2022年5月10日 (火)

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226

京都市北区紫野西舟岡町2番地

ふれあい共生館「きたアトリエ」

info@tensai-art.kyoto

http://tensai-art.kyoto

編集協力 株式会社 三六

天才アート

検索



『無題』 佐野 彰洋 Sano Akihiro 2003 年生 鉛筆、画用紙 380x540mm 2021 年制作

展 覧 会

予 告

2022年度 展覧会などの予定

2022年度に開催を予定している展覧会（主催・企画含む）などは下記の通りです。

なお、諸般の事情で予定が変更になる場合があります。変更になった場合は、ホームページなどを通じてお知らせします。

京セラギャラリー特別展『細部に宿る』

（入場無料）〈企画受託〉

会期 2022年10月1日（土）～11月6

日（日）

会場 京セラギャラリー／京都市伏見区竹田鳥羽殿町6 京セラ本社ビル1F



京セラ本社ビル内の京セラギャラリー入口

第10回『天オアート展2022』

（入場無料）〈主催〉

会期 2022年11月19日（土）～12月4

日（日）

会場 天オアートKYOTOきたアトリエ
／京都市北区紫野西舟岡町2 ふれあい共生館



昨年開催した第9回天オアート展 2021 の会場の様子



天オアート KYOTO 登録作家の作品パネルが 41 点が並ぶ現地風景

青空美術館（13号）〈主催〉

* P60号大の耐候性作品ポスターパネル41点を壁面100mに展示

会期 現在展示中／2023年3月

会場 呉竹総合支援学校 校舎新築工事現場・囲い堀／京都市伏見区桃山福島太夫北町52

青空美術館（14号）〈主催〉

会期 2022年12月1日～24年3月

会場 京都市立北総合支援学校 分校建設工事現場・囲い堀／京都市下京区高辻通堀川東入る西高辻町602

※青空美術館（13号・14号）のパネルは、いずれも株式会社SCREENホールディングスさまのご協賛により制作、または制作する予定です。



四条通地下通路の約100mにわたって中央柱に天オアート KYOTO 登録作家の作品パネルが並びます（前回展示の様子）

第6回『公共空間にアートの彩り！展』

〈主催〉*B1判サイズの作品ポスターパネル50点を展示予定

会期 2023年1月下旬～3月末

会場 四条通地下道 麩屋町通下～柳馬場通下間約100m

トピックス

レポート

株式会社SCREENホールディングスさまと 障害のある人との芸術創作活動の支援に関する協定を締結

2022年4月25日（月）、特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構（愛称：天才アートKYOTO）と株式会社SCREENホールディングス（以下、SCREEN）は、障害のある人の芸術活動の振興と社会参加を促進し、さらには共生社会の実現を目的として、芸術創作活動等の支援に関する協定を締結しました。



締結書にサインし握手する垣内永次代表取締役会長（右）と角谷理事長

本協定は、障害のある人のより豊かな自立と社会参加によるノーマライゼーション社会の実現を目指す天才アートKYOTOの理念にSCREENさまから賛同をいただき、障害のある人の芸術創作活動の支援や作品展覧会等、天才アートKYOTOが行うさまざまな活動に協賛していただけることを定めたものです。

ともに京都西陣の地に本拠地を置く法人として、障害のある人の芸術創作活動の支援を通じて連携することにより、共生と地域貢献を重視するサステナブルな社会の実現を目指していきます。

SCREEN本社と洛西事業所に新たなレンタル作品を展示

本協定の一環として、SCREEN本社と洛西事業所に原画レンタルの新たな作品の入れ替えを行いました。同社には2017年から原画レンタルを利用していただいております。今回は3期6年目のレンタルとなります。

本社には3点（足立茉莉さんと大場多知子さん、前田渉さん）と洛西事業所には2点（前田渉さん）の合計5作品が、それぞれのロビーにいろいろどりを添え、来訪者の目を楽しませています。



洛西事業所ロビーに展示されている作品



本社ロビーに展示されている作品

文化庁地域文化創生本部長官室に作品展示

本誌読者もご承知のように、文化庁の京都移転に向けてその諸準備のため、平成29年4月より京都市東山区に「文化庁地域文化創生本部」が設置されています。当機構では縁あって同年夏より、同創生本部2階にある長官室に当機構の作家の作品を展示していただいています。

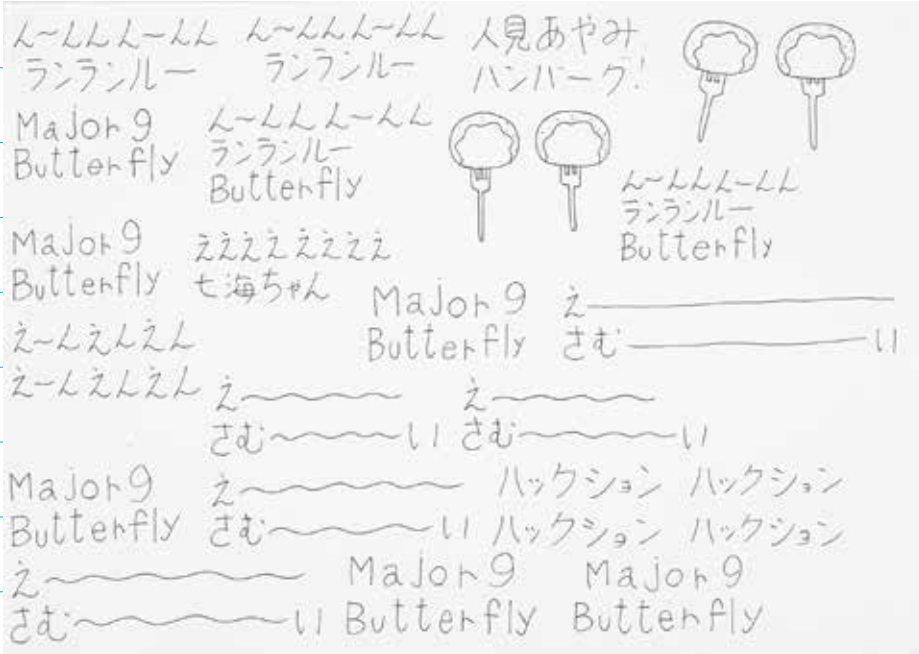
以後毎年、作品の展示替えをしています。令和3年度も2月に作品の入れ替えをし、作家2人（前田渉、影山弘樹）の作品2点を展示しました。いずれもF30号キャンバスにアクリル絵具の作品です。



前田作品を背に文化庁地域文化創生本部高田事務局長（右）と重光副理事長、右は影山作品

TENSAI ART NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト



「無題」 2021 年制作 ペン、画用紙 258×364mm

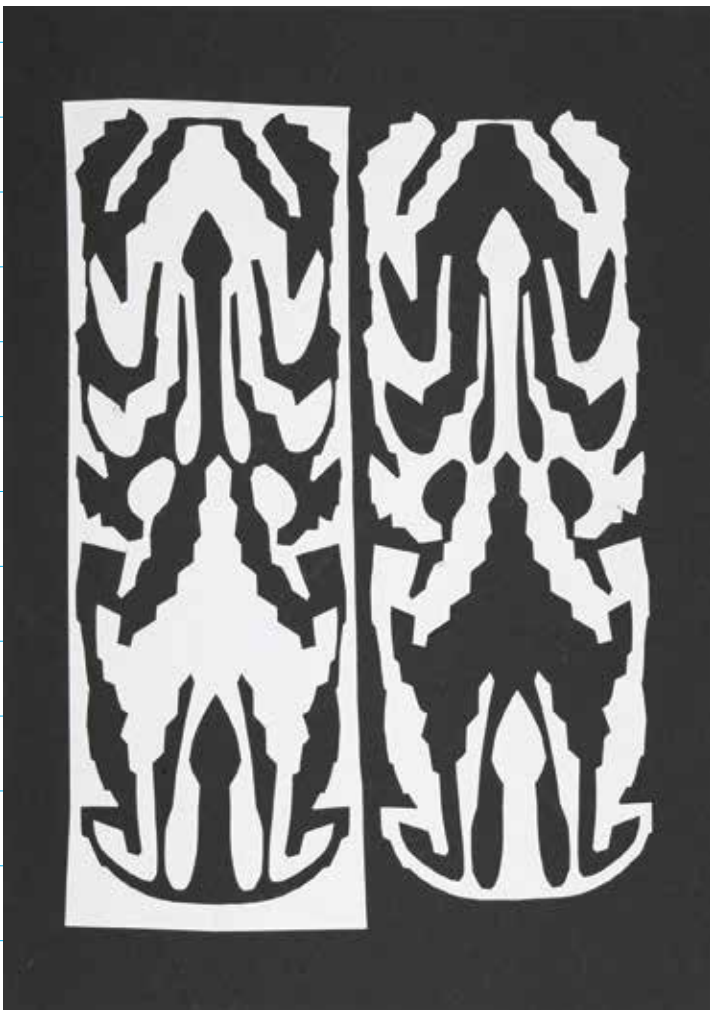
本 ちはる

本 ちはる Moto Chiharu 2003年生

アーティストには、「同じモチーフやタッチを継続して深める作家」のタイプと「作風を変え続ける作家」のタイプがいます。本は後者にあたり、彼女の興味によって数年単位で作風が変わり続けます。一見、違う作家の作品と思えるほど作風は変化しますが、一貫して日常生活の中での「反復」「漫画やキャラクター」「話し言葉」「食事と排泄」などがテーマとして出てきます。

近年はよどみなく流れていく話し言葉や思考がそのまま文字として紙に描かれ、ドローイングのようにも詩のようにも捉えることができます。

現在、まだ若い本作品は断続的な作風に見えるかもしれませんが、しかしながら、表面的には作風を変えながらも一貫したテーマで蓄積されていく作品群は、星が連なることで星座となるように、いずれその全貌を表すでしょう。



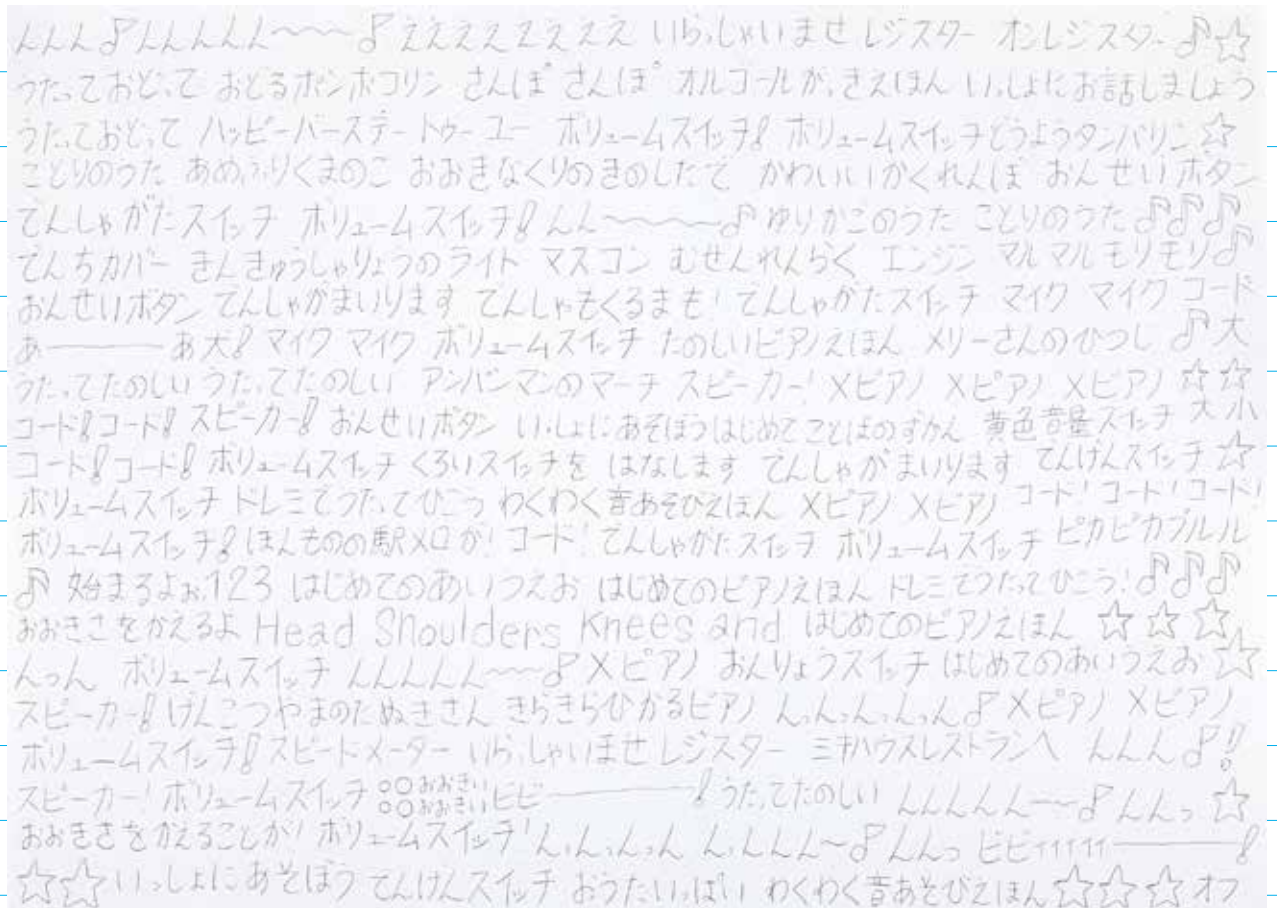
「トイブードルとネコの樹」 2017 年制作 コピー用紙、色画用紙 364×258mm 「無題」 2017 年制作 ペン、コピー用紙 285×200mm



小寺 菜月 Kotera Natsuki 1993年生

小寺の作品には、用紙を二つに折りハサミで切った左右対称の切り絵と、細い線でクマやうさぎやライオンなどをかわいく描いたキャラクターの絵の2つのシリーズがあります。異なる2つの作品シリーズは、一見すると同一作家の作品でないかのように思えます。しかしながら、どの作品も実は小寺の目線からみた「可愛い」を共通点につくられており、どれもユーモラスで人懐っこさがあります。特に切り絵作品は、野菜や果物、動物の頭部などが複数連なる複雑な形状になって進化を続けており、例えば掲載作品のようにトイブードルとネコなど気に入ったモノを組み合わせで合体させ、必ず「〇〇と△△の樹」と題して切り取るのです。

小寺 菜月



「無題」 2019 年制作 ペン、画用紙 342x545mm



「6」 2022 年制作 アクリル絵の具、ペン、キャンバス 725x610mm



「Third Eye」 2022 年制作 アクリル絵の具、ペン、キャンバス 455x532mm

前田 渉

前田 渉 Maeda Wataru 1977年生

前田は「宇宙現象」（作者本人による造語）を元に制作しています。彼によると「宇宙現象」とは宇宙の意思、個人の運命に対して振り子のような立場であり、「善／悪」「運が良い／運が悪い」など、すべての中立の立場に在ると言います。前田はその「宇宙現象」を取り入れて、自動記述（オートマティズム）も取り入れて制作しています。作品に必ずと言っていいほど登場する「人物」には特定のモデルはいません。ある時は知り合いに似ているし、作者自身にも似ているかもしれませんが。これらの人物もまた、「私であり貴方である」という個を超越した人物として描かれています。

ここ数年来、支持体ははキャンバスを中心に描いており、支持体の変化に伴って作品もよりダイナミックなものへと変化します。

ご家族さま
より寄稿

マイペースな日常の幸せ

石田 香映

百恵は今年の1月で20歳になりました。毎朝、描きかけの画用紙を自室のデスクに置いて出掛けます。帰宅後すぐに描き始められるように。遅刻しそうな時でも気にせずマイペースで。

●幼少期、描き始めたころ

「ダウン症の疑いがあります」。生後すぐに告げられ、検査を受け、とんとん拍子でダウン症確定。

それからは、他府県でのダウン症専門の赤ちゃん体操や療育、幼児教室、言語指導などとにかくいろいろと忙しい乳幼児期でした。自宅では姉と毎日塗り絵やお絵かきをしていました。ところどころ真似をして色を塗ったりしていたので、3つ歳の離れている姉は百恵にとつてはいい(?)お手本だったのかもしれない。

そして私立幼稚園に入園。そこでは担任とは別に、3年間同じ先生が加配として付いてくださいました。がんこやこだわりと



小学生の頃に描いた作品



自作『しらゆきひめのパレード』と一緒に

いった主張をするようになってきた百恵にしっかりと向き合って信頼関係を築いていただきましたし、丁寧な指導のおかげで百恵は筆記用具やはさみも使えるようになりました。

就学は地域の小学校に通いました。低学年の間は普通学級に在籍していました。ひらがなで名前は書けましたが、その他の読み書き、算数、会話は全くできないので、授業中は自由帳に絵を描いていることが多かったのです。主にディズニーやアニメのキャラクターを描いていました。百恵の自由帳にお友達が描いた絵を見つけては、一緒に絵を描くことで会話以外のコミュニケーションを取っているんだなあとうれしく思っていました。そんな描き込まれた捨てられない自由帳が山ほどあります。

育成学級に移ってからはさらに絵を描く機会が増えました。学習発表会の劇の1シーンを描いたり、壁面飾りの「鯉のぼり」

を描いたときは全く違う生き物になりましたが、発想が面白いと担任の先生に褒めていただいたのを覚えています。

中学から西総合支援学校に通いました。毎日休み時間には自由帳に絵を描いている百恵を見た先生から天才アートKYOTOを教えていただき、門を叩きました。

●天才アートKYOTOと出会ってから

支援アトリエではいつもディズニールاندでのエレクトリカルパレードの絵を描きます。夜のパレードなので黒の画用紙を使い、自分で撮った写真を見ながらクレパスで下描き(?)をしてから水彩絵の具を使っています。何度も色を塗りなおしたり重ねたりして納得のいくまで時間をかけて仕上げています。またアトリエにはたくさんの画材があり、筆もたくさん種類とサイズがそろっているのので、百恵は筆を選ぶのも楽しいようです。

コロナ禍でもあり、ディズニールランドには何年も行けていないのですが、百恵はカメラで写真を撮るジェスチャー

をしながら、「行つて、写真を撮りたい」というようなことを伝えてきます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で百恵の通っている福祉施設も閉所や時間短縮になることがあり、自宅で過ごすことがこの2年で増えました。自宅でも絵を描いています。アトリエとは全く違うものです。好きなアニメのキャラク

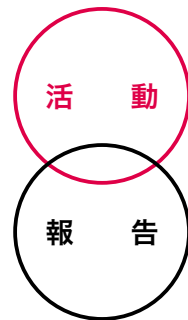


最近自宅で描いた作品

ターやエンブレム、または絵本などを見ながらキャラクターの名前を、ひらがな、カタカナ、アルファベットで画用紙いっぱいすき間を埋めるようにコチャコチャと描きこんでいきます。そんな絵が百恵の部屋には数えられないほどあります。『お絵かき』のような絵ですが、どれも『大切な1枚』ですし、多くのかたに見ていただける機会があるのは本当にありがたいことです。

アトリエや自宅での絵をアートポスターにさせていただき、公共地下通路や駅などに展示されるたびに、友人やお世話になった先生、懐かしい方からも「作品見たよ」と連絡をいただきます。会話でのコミュニケーションができない百恵が、天才アートKYOTOを通じて人や社会とのつながりを持つことができてうれしく思います。

そんな母の想いも百恵はどこ吹く風で、今日もマイペースでコチャコチャと画用紙を埋めていきます。これからも好きなことをしながら、とにかく元気に日常を送ってくれたらいいかなと思っています。



KYOTO CITY OPEN LABO、公民連携・課題解決推進事業に応募

京都市が抱える課題に、さまざまなノウハウなどを有する民間企業等がコラボして解決を目指す取り組み「KYOTO CITY OPEN LABO」に応募しました。

天才アートKYOTOが連携する事業は、地下鉄各駅のホーム等の壁面にある大型の「電照広告」の空スペースが目立ち、新型コロナウイルス禍の影響とともに構内の雰囲気は暗くしているという「課題」に対し、当機構が所蔵する作品アーカイブを活用して、「賑わいと華やき」を生み出して解決するものです。

具体的には、4月15日から烏丸線の左記3駅に掲出されています。地下鉄をご利用の際はぜひお楽しみください。



烏丸御池駅：長村 駿「アカショウビン」



烏丸御池駅：若林義輝「生と滅（りんね）」



四条駅ホーム：石原寛子「無題」



【実施場所と作品】

- 北大路駅ホーム中央部の南向壁面：三津田 一輝「三津田の風神」
 - 烏丸御池駅北改札口内の東西線両方面通路の各円柱面：長村 駿「アカショウビン」、服部可菜恵「アンスリウム」、前田 渉「Drive the Vision」、若林義輝「生と滅（りんね）」
 - 四条駅ホーム中央部の南向壁面：石原寛子「無題」
- なお当機構は、現在4千点を超える収蔵作品の半数以上をアーカイブ保存しており、社会のさまざまなアートニーズに提供し採用されています。

Artist Review (アーティスト) を発行

このたび、公益財団法人京遊連社会福祉基金の助成により、「Artist Review (アーティスト・レビュー)」を発行しました。この企画は、美術批評の専門家を招聘し、作家・作品選定と批評を寄稿してもらい、英訳とともにポスター配布する現代美術へのアプローチを期するプロジェクトです。今回は三宅敦大 (H.B. 共同代表・滋賀県立美術館学芸員／キュレーター) 氏をお招きし、石原寛子作品についての批評を掲載しました。

現在、障碍のある作家や作品への現代美術批評がされる機会が少ないように思われます。そういった状況に少しでも変化を起こすため、このプロジェクトが発足しました。今後もしも不定期ながら継続していく予定です。

チェリオと天才アートのコラボレーション自販機登場

天才アートKYOTOでは、株式会社チェリオコーポレーションさまと連携して自動販売機に当機構所属作家の作品をラッピングする事業を展開しています。

このたび、その第一弾として、天才アートKYOTOも入居する「ふれあい共生館」

の玄関前にコラボレーション自販機が設置されました。

今回のコラボレーション自販機の設置は、「チェリオ×くらしネット21×天才アートKYOTO」の3者による共同事業です。ラッピングデザインは、当機構所属作家の大場多知子さんの作品「大きき祭り」で、自販機の前面と側面いっばいに表現された作品は迫力満点です。

皆さんの街にも天才アート作品で彩る「天才アートKYOTO自販機」を設置しませんか。現在、自販機設置場所を募集しておりますので、ご検討いただけます方は、当機構までお問合せください。



【天才アートKYOTO × SUZURI】好評発売中

昨年引き続き、「作品アーカイブ提供事業」の一環として、「SUZURI by GMO」
<https://suzuri.jp> を利用して、順次新たなグッズ制作および販売を行っています。

SUZURIとは無在庫で、注文を受けるたびにグッズを作成するサービスです。デザインできる商品としてはスマホケース、Tシャツ、トレーナー、メモ帳、マグカップ等があり、作成した商品は、SUZURIサイトを通じてのみ購入いただけます。

現在、当機構所属作家の作品を順次制作中です。お知り合いの方への紹介や広報などを通じて、販売数の拡大にご協力いただき、ますますありがたいです。皆さまのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



会員・寄付およびボランティアさんを募集しています

障碍のある人のアート創作活動を推進するために、作品を創る環境を整え、作品をアーカイブ（記録・保存）し、作品を商品化するアイデアを出して実現させていくこと、活動をPRしていくこと…など、サポートしていただけることはたくさんあります。アートを勉強中の学生さん、さまざまな分野で活躍されている社会人の皆さん、社会貢献に興味のある方、特技やノウハウを活かして私たちの活動にぜひ参加してください。

●以下のような活動に関わっていただける方を募集しています。

- ①会報・広報活動の企画・編集
 - ②作品のデザイン化・商品化などの企画
 - ③その他、得意分野を活かした活動など
- 詳しくはホームページをご覧ください。
<http://tensai-art-kyoto>

会報広告主さま募集中！

『会報 天才アート』は、展示会の予告や報告をはじめ、さまざまな活動報告、登録作家の作品紹介やご家族からの寄稿文など、当機構に関わる情報を掲載しています。

会報の発行部数は毎号3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。

当機構の活動にご賛同いただける企業さまや団体・組織の広告協賛を募集しています。

す。ぜひともご協力をお願いします。

1 枠 (55 × 22mm) … 1万円 (4 回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、

info@tensai-art-kyoto.jp

〈編集後記〉

このたび株式会社 SCREEN ホールディングスさまから、「障碍のある人の芸術創作活動の支援に関する協定」という大変にありがたいご提案をいただき、その締結式を4月25日に行いました。その席で同社の垣内会長からわれわれの活動に過分なる評価をいただき、身の引き締まる思いがしたと同時に、頂いた支援に応える責任を痛感した次第です。

当機構も設立12年を迎え、東山区の新道アトリエから現アトリエに移転して一年が過ぎようとしています。制作環境の充実と発表の場の提供、そして社会への広報活動など、さらに努力を重ねていきたいと考えています。今後とも、われわれの活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【表紙の作品について】

鉛筆でドロインク作品を生み出す佐野の制作方法は、常にiPadの電卓アプリで数式を解きながら鉛筆で描くという、非常に特殊なプロセスを経て出来上がります。

計算で導かれた難解な数式や複雑な幾何学的形状、あるいは思考の産物とも判別がつかないドロインクを目的の当たりすると、「これは一体何なのか？」といった不思議な気分になります。かつてガリレオ・ガリレイは、「宇宙という書物は数学の言葉で書かれている」と言ったように、観客が佐野の作品を前にした時、世界の不思議を解き開かず「鍵」を手にした感覚になるのかもしれない。

なお、佐野の数式を専門家に見てもらったところ、

「合っている、とても気持ちいい計算式」とのことでした。



『無題』佐野 彰洋 Sano Akihiro 2003 年生
鉛筆、画用紙 380×540mm 2021 年作

画材・額縁
画箋堂
 京都・河原町五条

京都上鳥羽
 の
 印刷会社

MORI
 (有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898

SCREEN
 株式会社 SCREEN ホールディングス



一級建築士事務所
 町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
 エンジニアリング**
 06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake



吉村建設工業 (株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
 075-802-1360

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®
 洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
 洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院